

第1学年国語科学習指導案

日時 平成27年11月11日(水) 授業②
場所 八幡平市立西根中学校 1年2組教室
学級 1年2組(男子17名 女子13名 計30名)
授業者 佐々木 朋子

1 単元名

いにしへの心にふれる 蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から

2 単元について

(1) 生徒観

生徒は、小学校で「竹取物語」や「枕草子」、「平家物語」の冒頭文、「論語」「春暁」などの漢詩文、狂言「柿山伏」の音読に取り組んでおり、過半数が古文の暗唱も経験している。教材によっては、内容についても学習しているが、音読を中心とした学習がほとんどである。小学校での学習経験があり、本教材が「かぐや姫」としてなじみのある物語であることから、生徒は興味・関心をもって学習に取り組むことができると思われる。

本学級は、一部の生徒は音読に積極的だが、音読する際に声が小さくなりがちな生徒も多い。自信をもって楽しみながら読むことができるように、繰り返し音読を取り入れたい。小グループでの交流は、1学期に筆者の書き方の工夫を考える課題や、互いの文章を評価する学習活動などで行っているが、まだそれぞれの考えを発表することで終わることが多い。考えを広げたり深めたりする交流活動に発展していくように、個の気付きや考えを交流する学習活動を取り入れたい。

(2) 教材観

中学校の古典の学習は生徒が古典に親しみをもつことをねらいとしている。本教材は、「かぐや姫」を想起しながら、生徒が興味・関心をもって読むことができる作品である。不思議な誕生と成長の末に別世界に帰還してしまう姫の設定や求婚した貴公子たちの冒険譚を含む展開の面白さ、不死の薬を燃やす物語の結末など、生徒は昔話として断片的に覚えている「かぐや姫」との違いや新たな発見を楽しみながら読むことができる。また、美しいものへのあこがれ、愛するものを失う悲しみ、人間のずるさなど、現代に通じる人間の姿を感じることができる物語でもある。古典に由来する言葉が現代に受け継がれていることを知る点からも、古典の入り口としてふさわしい教材である。

(3) 指導観

第1学年の古典の学習では、文語のきまりや訓読の仕方を知りつつ、音読を通して古文や漢文独特のリズムを味わい、古典の世界に触れることごと、古典には様々な種類の作品があることを知ることを指導事項としている。単元を通して音読を楽しませ、基本的な文語のきまりを習得させたい。

本教材では、語句や表現の特徴に注意して原文と現代語訳を読み、展開やあらすじを理解させたい。また、作品を通して、現代に通じる人々の考え方やものの見方について考えさせたい。

3 単元の目標

- (1) 古典に示された内容やものの見方について関心を持ち、感想を交流しようとする。【国語への意欲・関心・態度】
- (2) 登場人物の行動や心情、情景描写に注意して読み、作品のおもしろさをとらえている。【読むこと ウ】
- (3) 作品や資料を通して、当時の人々のものの見方や考え方を現代と比較してとらえている。【読むこと オ】
- (4) 古文の仮名遣いや言葉遣い、古語の意味を理解できる。【伝統的な言語文化に関する事項】

4 単元指導計画と評価（全5時間）

次	時 間	学習課題	評 価 規 準		
			国語への関心・意欲・ 態度	読む能力	伝統的な言語文化 に関する事項
1	1	「竹取物語を音読し、古文の きまりについて確認しよ う。」	・古文の内容や表現に 関心をもち、進んで音 読しようとしている。 (観察・記述)	・語句の意味や古文 の表現の特徴に注 意して読み、物語冒 頭部のあらすじを 理解している。 (記述)	・文語のきまりを知 り、古文を音読し て、古典特有のリズ ムを味わいながら、 古典の世界に触れ ている。 (観察・テスト)
	言	・物語のあらすじを理解するために、文語のきまりに注意しながら古文を音読する。			
2	2	「かぐや姫誕生場面の不思 議さについて考えよう。」	・かぐや姫の誕生場面 の不思議さについて 考え、その内容につ いて進んで交流しよ うとしている。 (観察・記述)	・登場人物の行動や 心情などの描写に 注意して読み、かぐ や姫の誕生場面の 不思議さについて 考えている。(記述)	
	言	・かぐや姫の誕生場面の不思議さについて考えるために、登場人物の行動や心情などの描写に注意して読み、交流する。			
本 時	3	「くらもちの皇子の作り話 はどこが上手いのか考えよ う。」	・くらもちの皇子の作 り話の上手さにつ いて考え、その内容につ いて進んで交流しよ うとしている。 (観察・記述)	・登場人物の行動や 心情などの描写に 注意して読み、くら もちの皇子の作り 話の上手さにつ いて考えている。 (記述)	
	言	・くらもちの皇子の作り話の上手さについて考えるために、登場人物の行動や心情などの描写に注意して読み、交流する。			
	4	「物語の結末のおもしろさ を考えよう。」	・物語の結末のおもし ろさについて考え、そ の内容について進ん で交流しようとして いる。(観察・記述)	・登場人物の行動や 心情などの描写に 注意して読み、物語 の結末のおもしろ さについて考えて いる。(記述)	
	言	・物語の結末のおもしろさについて考えるために、登場人物の行動や心情などの描写に注意して読み、交流する。			
3	5	「登場人物と今の私たちに 共通するところはないか考 えよう。」	・物語の登場人物のも のの見方や考え方を 現代と比較しながら 考えようとしている。 (観察・記述)	・物語の登場人物の ものの見方や考え 方について、現代と の共通点や相違点 について考えてい る。(記述)	
	言	・作品や資料を通して、当時の人々のもの見方や考え方を現代と比較してとらえる。			

5 本時の指導

(1) 本時のねらい

- ・登場人物の行動や心情などの描写に注意して読み、話のおもしろさについて考えることができる。

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準	言語活動の工夫
① 【国語への関心・意欲・態度】	・くらもちの皇子の作り話の上手さについて考え、その内容について進んで交流しようとしている。 (観察・記述)	・くらもちの皇子の作り話の上手さについて考えるために、登場人物の行動や心情などの描写に注意して読む。 ・くらもちの皇子の作り話の上手さについて考える。
② 【読むこと】	・登場人物の行動や心情などの描写に注意して読み、くらもちの皇子の作り話の上手さについて考えている。(記述)	・個人の考えを基に交流し、グループでベスト3を決めさせる。 ・グループの交流を基に、自分のベスト1を決めさせる。

(3) 本時の展開

段階	学習活動	指導と評価	指導上の留意点
<p>導入</p> <p>5分</p>	<p>1 前時までの学習内容の想起。 ・5人の貴公子にそれぞれ難題が出されたことを想起する。</p> <p>2 学習課題の確認。 課題設定</p>	<p>・本時の学習課題と学習の流れを把握させる。</p>	<p>・くらもちの皇子が架空の冒険譚を語ること、姫はそれが作り話であると見抜けないことを踏まえて、本時の課題を確認する。</p>
<p>くらもちの皇子の作り話はどこが上手いのか考えよう。</p>			
<p>展開</p> <p>40分</p>	<p>3 原文を音読する。</p> <p>4 原文に対応する現代語訳を読み、内容をつかむ。</p> <p>5 くらもちの皇子の作り話の上手い部分を指摘し、理由を述べる。 個人で考えた後、グループで交流し、より巧みであるという視点で比較しベスト3を決める。 情報分析・思考・判断 グループの考えを全体で発表し、聞き合う。</p> <p>6 くらもちの皇子の作り話の上手さについて、交流をもとに自分のベスト1を決め、理由を書く。 思考・判断</p>	<p>・【関心・意欲・態度】くらもちの皇子の作り話の上手さについて考えるために、登場人物の行動や心情などの描写に注意して読む。(観察・記述)</p> <p>・くらもちの皇子の作り話の上手さについて考えるために、登場人物の行動や心情などの描写に注意して読む。</p> <p>・【読むこと】話の上手い部分とその理由を書くことができる。(記述)</p>	<p>・全体で正しく読む練習後、ペアで音読させる。</p> <p>・学習シート ・具体的な表現に着目させるようにする。</p> <p>・付せんを使い、グループが指摘した部分を分かりやすく掲示する。</p> <p>・学習シート</p>
<p>終末</p> <p>5分</p>	<p>7 学習を振り返る。 ・本時の振り返りを書く。 振り返り</p> <p>8 次時の学習内容の見通しをもつ</p>	<p>・皇子の作り話の上手さについて自分の考えをもち、交流を通して考えを広げたり深めたりできたかを振り返らせる。</p>	<p>・振り返る観点を示して書かせる。</p>

(4) 板書計画

<p>学習シート (拡大版)</p>	<p>くらのもちの皇子の作り話はどこが上手いのか考えよう。</p>
<p>(各グループで上手いと思った部分に付せんをはる)</p>	<p>学習課題</p>